

令和5年度

郁文館高等学校 I期募集試験  
郁文館グローバル高等学校 一般試験

# 国語

時間50分・100点満点

## 受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入すること。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入すること。  
記入方法を誤ると得点にならない。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも回収される。

郁文館高等学校

郁文館グローバル高等学校

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ある販売会社の壁に、こんな標語が貼ってあるのを見かけた。「セールスは断られたときに始まる」。それを見て私は、あっぱれな精神！と大いに感心したのだが、同時に、なんと日本的なスローガンだろうか、と思った。なぜなら、この標語は「日本人にとって断るということは、けっしてきっぱりと断ることでは<sup>ア</sup>ない」と言っているように思えたからである。もし断ることが、きっぱり断るのと同義であるなら、こんな標語は成り立つわけがない。いくら<sup>あ</sup>セツトクしても、客は最後まで「ノー」と言うであろうからだ。ところが、こうしたスローガンが立派に通用し、社員を<sup>い</sup>鼓舞しているところを見ると、日本人の否定は完全な否定ではなく、あくまで<sup>①</sup>「応の否定」であって、その否定はいくつかの肯定に転じる可能性を持っていることが、わかる。別言すれば、日本人にとってきっぱり断ること、最後まで「ノー」と言い続けること、<sup>②</sup>それがいかに困難であるか、この標語が見事にいい当てているのである。

このように、日本人は完全な否定を声明することをためらい、つねに<sup>③</sup>いくばくかの肯定の余地を残すのを<sup>美</sup>徳と考えるから、外国人との間でしばしばトラブルが起きる。たいていの民族は、否定は否定、肯定は肯定と、それこそイエス、ノーをはっきりと区別している。否定だか肯定かわからないと、いらいらし、勝手にどちらかにきめて行動する。すると日本人はびっくりして、じつはそうでは<sup>エ</sup>ないんです、などと訂正する破目になる。外国人の間で通念のようになってい日本人の否定のあいまいさに大半を負っている。

そのいい例が、「<sup>④</sup>結構です」という慣用表現であろう。この場合の「結構」というのは「申し分のない」「大変よい」という意味であるが、同時に拒絶の意志を表明する際にも用いられる。この場合、「自分はこのままで充分満足しているので、これ以上は望みません」ということであり、「結構」本来の意味とけっして<sup>⑤</sup>ムジユンした表現ではないのだが、「いかがですか?」と何かすすめられ、「結構です」(ヴェリイ・グッド)といえは、外国人にははつきりとした肯定と受け取るに<sup>オ</sup>ちがいない。

では、なぜ日本人はそのようなあいまいな否定の表現を使うのか。きっぱりと断るのをよしとしないからだ。肯定とか否定というのは、あくまで主体の意志や判断について言明されることなのであるが、日本人はその際にも相手とのかかわりあいを使い分けるのである。「結構」とは「充分に満足すべき状態」を意味し、したがって、それが(A)のことがらについて用いられるときには「すばらしい」の意になり、(B)について使うときには「充分満足しているのだから、これ以上は望まない」という婉曲な拒絶の意となる。だから「結構です」といえば「ノー」であり、「結構ですね」と「ね」を加えると、それは(C)についての言明になるからである。つまり、それは「あなたの申し出は結構なことですね」ということであり、したがって、「<sup>⑥</sup>遠慮なく頂戴いたしましょう」ということになるのだ。

長く日本に住んでいるベルギー人の神父で言語学者でもあるグロータース氏が、笑いながら私に教えてくれたことがある。中国人と日本人は話しているところを見れば、すぐに区別がつく、というのである。「どんな点で区別できるのですか」ときくと、グロータース氏はこういった。

「会話の間中、うなずいているのが日本人、けっして首を動かさないのが中国人ですよ。それですぐわかるんです」

言われてみれば、確かにそうである。日本人は相手が何かを言明しないうちから、もううなずいている。しかし、それは必ずしも相手に賛同しているわけではない。「私はあなたの言うことを、ご覧のように<sup>⑦</sup>傾聴していますよ」と言っているに過ぎないのだ。したがって、日本人のうなずきは肯定とは限らない。そこで外国人との間にまた誤解が生じる。相手は日本人がうなずいているので、(D)の意見に共鳴していると受け取ってしまうのである。

「ノー」にあたる日本語が「いいえ」なら、「イエス」は「はい」とか「ええ」ということになる。だが、この肯

定の表現も否定の言葉と同様に「きっぱりとした肯定、ないしは同意」とは限らない。日本人は肯定においてもきわめてあいまいで、否定の余地を必ず残しておくのである。「はい」「はい」と言いながら、相手の言うとおりに行動しないということは、日本人ならざらにあることではないか。日本人は約束を守らない、ずるいといったイメージは、日本人の<sup>⑤</sup>このような肯定のあいまいさにも<sup>⑥</sup>キーンしているのだ。

考えてみると、生きるということは肯定と否定から成り立っていると見えよう。人生とは肯定と否定とで織り出されている行為の集積なのである。だとすれば、その肯定と否定とが、ともにあいまいであるということは、その人の<sup>\*</sup>そのものがあいまい——ということになる。日本人が地球社会で生きてゆくためには、そして、各人がメリハリのある人生を送りたいというのなら、この際、改めてイエスとノー、「はい」と「いいえ」をきっぱりと言い切る言語習慣を身につける必要があるのではなからうか。

(森本哲郎「日本語 表と裏」による)

問一 傍線部(あ) (お) のカタカナを漢字にし、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

問二 二重傍線部ア、オのうち文法的に異なるものを一つ選びなさい。

問三 波線部 a 「美德」は対義語を考えて漢字二字で答え、b 「傾聴」は熟語の構成が同じものを、次の1～6の中から一つ選びなさい。

- 1 登山
- 2 非常
- 3 地震
- 4 柔軟
- 5 仮定
- 6 賞罰

問四 傍線部①「一応の否定」とはどういうものか、端的に表した言葉を文中より七字で抜き出しなさい。

問五 傍線部②「それ」とは何を指しているか。文中の言葉を使って十字以内で答えなさい。

問六 傍線部③「いくばくかの肯定の余地を残す」と同意表現を文中より二十字で抜き出しなさい。

問七 傍線部④「結構です」について説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を指定字数に合わせて文中より抜き出しなさい。

「結構です」について日本人は (I 五字) の意で使うのに対し、一方、外国人はそれを (II 九字) と受け取る。

問八 (A) (B) (C) (D) には「自分」か「相手」のどちらかが入る。「自分」ならア、「相手」ならイとして答えなさい。

問九 波線部のように外国人との間で「トラブル」が起こる理由を、本文全体を踏まえ、外国人と日本人の違いに言及して五十文字以内で答えなさい。

問十 傍線部⑤「このような肯定のあいまいさ」とはどういうものか、「肯定」につなげて十五字になるように文中より抜き出しなさい。

問十一 \*にあてはまる言葉を文中より二字で抜き出しなさい。

【二】次の文を読み、以下の問いに答えなさい。

「ちょっと調子悪いな」

今日計測したタイムと、過去三回分のタイムを見比べる。＊助川のタイムは自己ベストからはほど遠いものだった。

「まずいな。＊眞家弟に抜かれるかも」

「まさか。まだ差が大きすぎるよ」

そう言いつつも、心の中では助川の言葉に頷く。春馬がこの調子でタイムを上げていったら、助川が引退する前に春馬が部内トップに躍り出るかもしれない。

「故障とかしないでこのまま行けば、大学もいいところに行けるんじゃないか」

「あいつ、食生活めちゃうくちゃだから、<sup>①</sup>しないといんだけどな」

故障。そう言い足すと、<sup>a</sup>無性に息が苦しくなった。偏食家な上に食も細いのに、春馬はどうして故障しないのだろう。それなりにちゃんと食べて、それなりに綺麗なフォームで走っていたはずの自分が、どうして故障したのだろう。胸の奥を際際<sup>②</sup>冷たい風が吹き抜けた。心臓に走った痛みが、そのまま右膝へと流れていく。

「おまえ、この間、一組の＊井坂と一緒に自転車でどっか行ってただろ」

助川が都の名前を出したことに、早馬は動揺した。過去にクラスが一緒だったことがあるのだろうか。都のことも、よく知っているふうな言い方だった。

「そういえば、擦れ違ったな」

「どこ行ってたんだよ」

早馬が都と自転車を二人乗りして走り去ったのを目撃した知り合いは多かった。<sup>③</sup>お前達は付き合っているのか、二人でどこへ行ったんだ。そう聞いてくる奴もいた。けれど助川の声は、野次馬じみた好奇心旺盛なものは違った。

違ったから、<sup>b</sup>厄介だった。

「部活に來ない日は、真木クリニツクにリハビリに行ってるんじゃないのか」

A【そんなの、もう<sup>④</sup>公然の秘密ではないか。少なくとも、三年生の間では。】

眞家早馬は、週何日か部活を休んでリハビリのために病院に行っている。授業終わりと病院の時間の合間で、調理実習室でこそそと彼女と二人で料理をしている。そういうことになっている。なっているだけだ。

「助川だってわかってるだろ。手術から半年もたったのに、週に何回も病院でリハビリなんてしないって」

当たり前前のこと。けれど、自分も助川も、春馬も父親もみんな見ないようにしていた事実を、早馬は自ら助川に突きつけた。

「何してたんだよ」

「ちょっと、弁当箱買いに行ってた」

「弁当箱？」

「本格的に自炊始めたんだよ、最近。昼も弁当を作って持ってきてる」

「へえ」

興味なさそうに助川が言う。スポーツドリンクに口をつけて、春馬や他の部員を見やった。口の端っこに、<sup>⑤</sup>苛々や不信感がこびりついているようだった。

「お前、体重増えただろ」

春馬と同じことを言いやがる。

「そう見える？」

「改めて見ると、怪我する前よりずっと肉がついてる」

そう問われ、思わず笑ってしまった。

「失礼だなぁ、そういうこと直接聞く？」

そんなことで勘弁してもらえらるとは、思えなかったけれど。

「八キロ、増えたよ」

「はちい？」

助川自身が想像していた数値より、ずっと多かったようだ。途端に彼の顔が険しくなった。

「お前、ちゃんとトレーニングしてるのか」

「してたら、八キロも太らないだろうな」

助川の鋭い目が、すうっと見開かれる。彼が傷ついたのがわかった。スナオに「ごめん、最近サボってるんだ」と言えば、彼は怒るだけで済んだのに。嫌な言い方をしたばかりに、彼を傷つけてしまった。

「井坂にも聞いた。お前は陸上部の練習が終わる直前まで、調理実習室にいるって。陸上部の連中が帰宅する前に、逃げるように下校するって」

助川の目に、再び怒りの炎が宿ったのがわかる。伝わってくる。

なんだ、知ってるのか。助川と都は、アンガイ仲がいいのかもしれない。そう思うと、肩から力が抜けた。体が軽くなって、心にヨユウが生まれた。

「<sup>⑥</sup>やめるのか」

何を、とは助川は言わない。早馬も聞かない。

助川とは、入部したときからずっと一緒に練習してきた。相手の不調も共に走ってればわかるし、体調を崩していれば走り方で察することができる。

早馬の異変を最初に見抜いたのも、彼だった。彼がいなかったら、自分は駅伝の関東大会へも出場していただろう。膝がどんなに痛くとも、走ることにすがりついたらだろう。その道を閉ざしてくれたのは、助川だった。

<sup>⑦</sup>手術しろと言ってくれた。リハビリして戻ってこいと言ってくれた。

その言葉がまるで、自分に引導を渡しているように聞こえた。だから、「俺はもう終わりなんだ」と思った。

注 助川：真家早馬が所属する陸上部の主将。 真家弟：真家春馬のこと。早馬の弟。

井坂：料理研究部の生徒。放課後、早馬に料理を教えている。

(額賀滯「タスキメシ」)

問一 傍線部 a の漢字は読みを、カタカナは漢字を答えなさい。

問二 傍線部①「しないといいんだけどな」とは、何をしないといいのか。本文中から一語で抜き出しなさい。

問三 A【】に使われている表現技法を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 直喩      イ 隠喩      ウ 擬人法      エ 倒置法      オ 反復法

問四 傍線部②「冷たい風」とあるが、早馬のどのような気持ちを表したのか。次の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 好きなものを好きなだけ食べられる弟をうらやむ気持ち。

イ 部内トップに躍り出る活躍をしそうな弟をうらやむ気持ち。

ウ このまま行けば良い大学に行けそうな弟をうらやむ気持ち。

エ 偏った食生活でも故障しない体をしている弟をうらやむ気持ち。

問五 傍線部③「お前たちは付き合っているのか、二人でどこへ行ったんだ」という質問を本文ではどのようなものと表現しているか。本文中より十五字以内で抜き出しなさい。

問六 傍線部④「公然の秘密」の辞書的意味は「秘密であることにはなってはいるが、広く知れ渡っていること」である。では、この場面において何が「公然の秘密」であるのか。二十五字以内で答えなさい。

問七 傍線部⑤「苛々や不信感がこびりついている」とあるが、この時の助川の気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア ここそそと隠れて何かをするのではなく、正々堂々と自分と向き合うことを早馬に期待する気持ち。  
イ 故障したからといって全く部活動に関わらないようにする早馬の姿勢に対して怒る気持ち。  
ウ 入部時からの仲間として、選手への復帰を半ば諦め身体することに気を配らない早馬を許せない気持ち。  
エ 早馬なら選手として戻れなくても何らかのサポートはできるだろうと憤る気持ち。

問八  の中に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 試合着入るのか？      イ 何キロ増えたんだ？  
ウ お前、走れるのか？      エ 料理は上手いのか？

問九 傍線部⑥「やめるのか」とは、何をやめるのか。本文中より三字で抜き出しなさい。

問十 傍線部⑦「手術しろと言ってくれた。リハビリして戻ってこいと言ってくれた。」とあるが、その当時の早馬の気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 必要とされていないという失望      イ 怪我の心配をしてくれた嬉しさ  
ウ 余計なお世話を焼くなという反発      エ 必ず部に戻ってくるといふ決意